



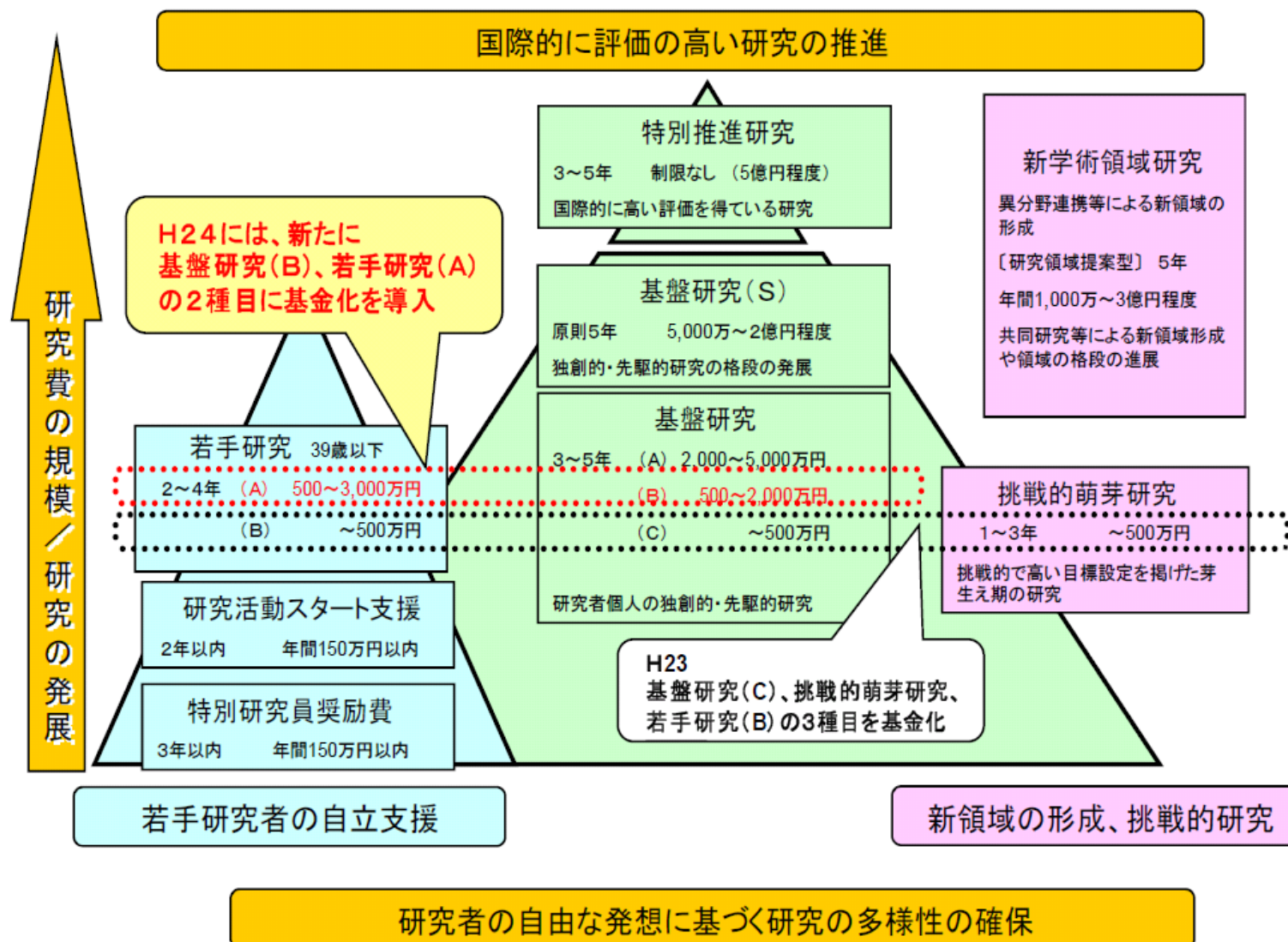
科研費制度の概要について

教育学部科研費説明会

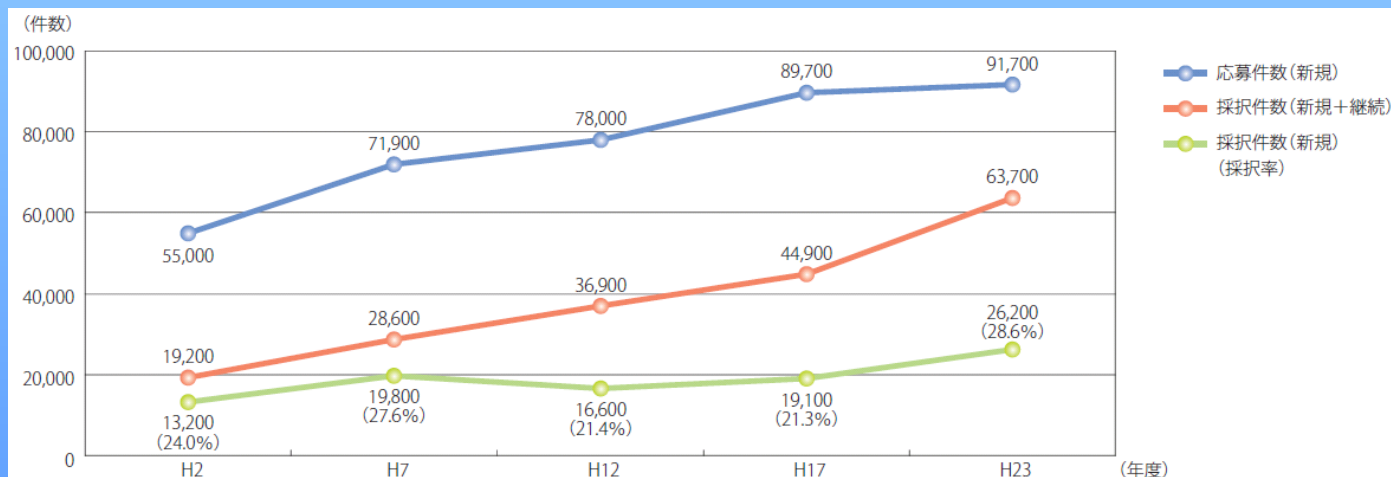
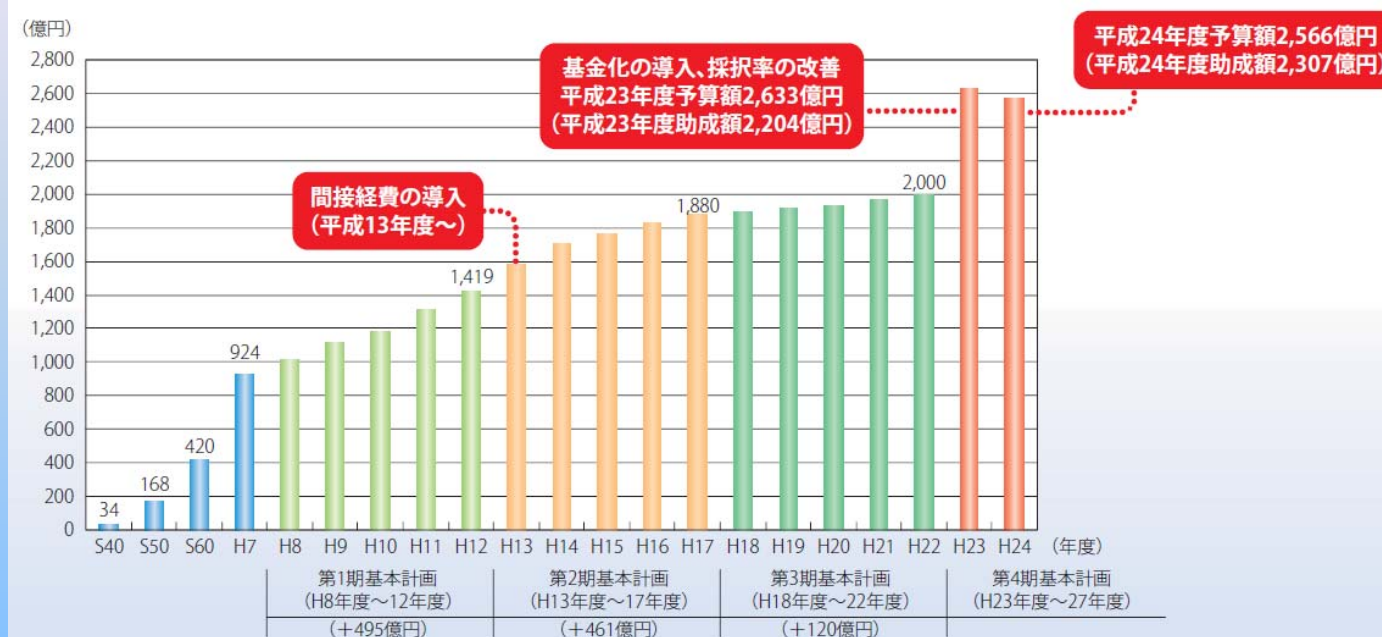
2012. 9. 13

研究企画推進課

研究種目の構成



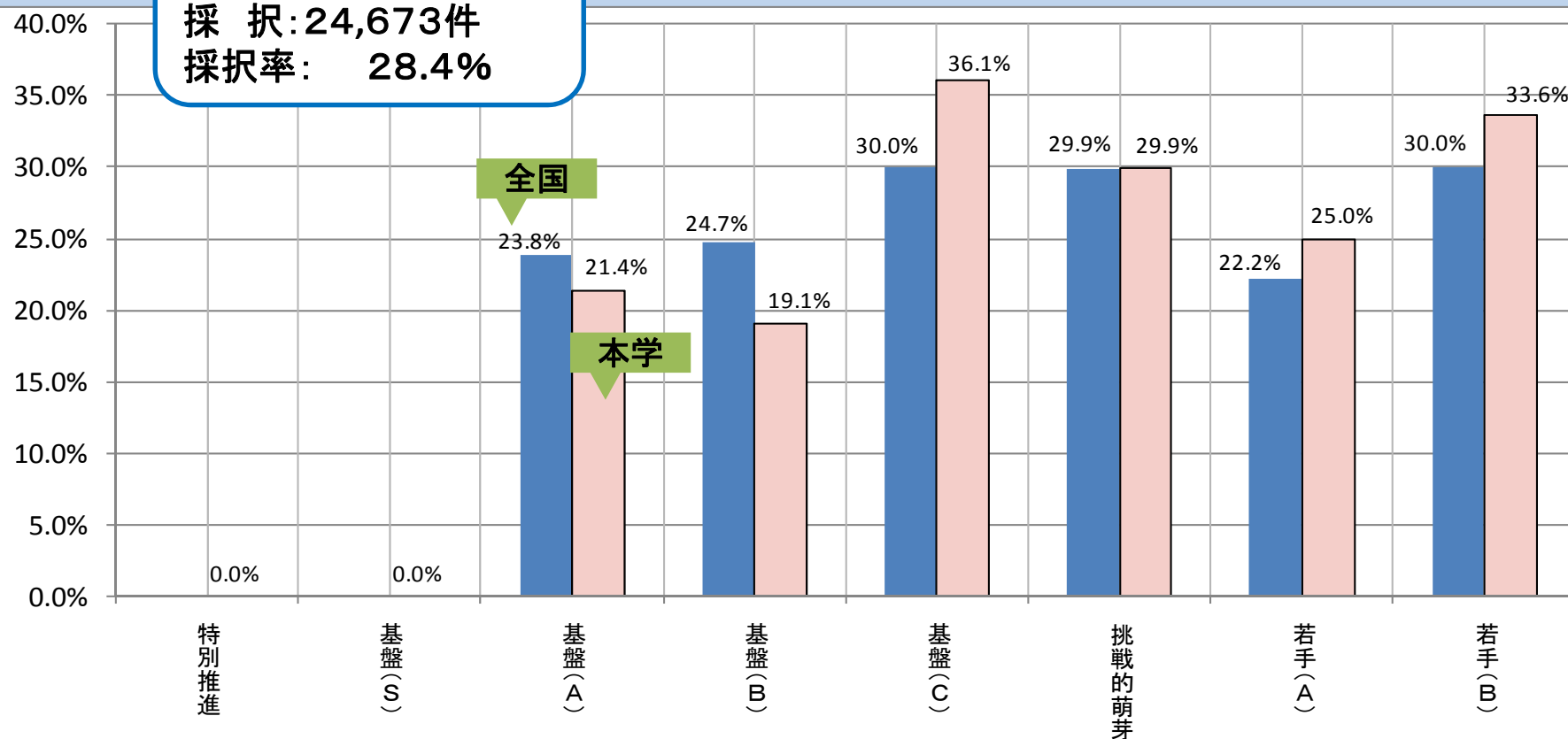
科学研究費の予算の推移





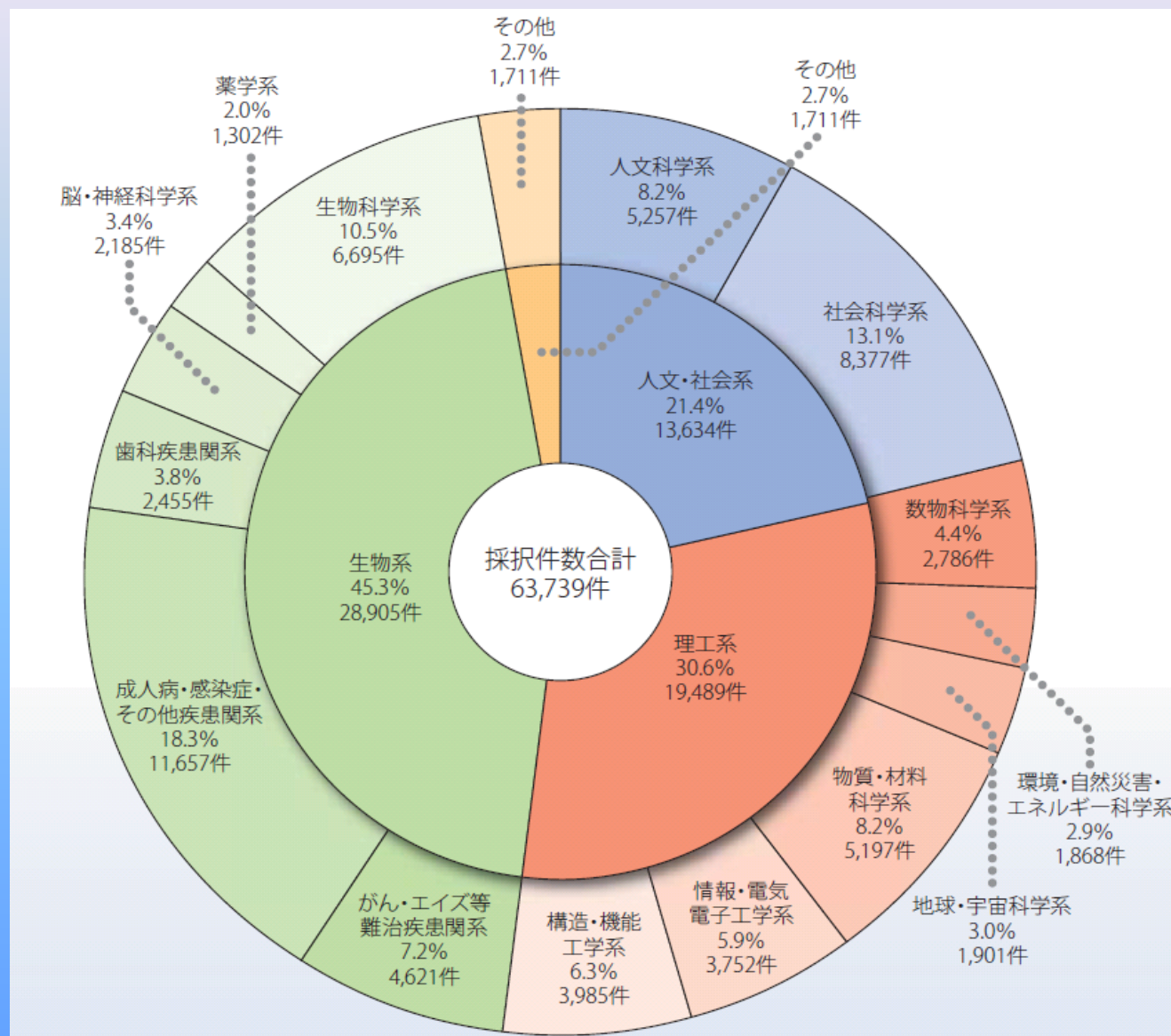
平成24年度 科学研究費助成事業配分状況(新規採択分)

全国(科研費全体)
応募: 86,874件
採択: 24,673件
採択率: 28.4%





研究分野別の採択件数(平成23年度 新規+継続)



※ 平成23年度科学研究費のうち、「奨励研究」を除く研究課題(新規採択+継続分)及び「学術創成研究費」の当初配分について分類したものです。



平成24年度科学研究費補助金(基盤研究等) (抜粋)
細目別 新規応募・採択件数一覧

平成24年4月現在

分野名	分科名	細目名	細目 番号	応募 採択	基盤(A) 一般	基盤(A) 海外	基盤(B) 一般	基盤(B) 海外	基盤(C) 一般	挑戦的 萌芽	若手(A)	若手(B)	計
総合領域	健康・スポーツ科学	身体教育学	1401	応募	1	0	27	1	126	41	6	89	291
				採択	0	0	7	0	39	13	1	29	89
		スポーツ科学	1402	応募	11	0	41	1	266	117	15	231	682
				採択	2	0	10	0	82	37	5	73	209
		応用健康科学	1403	応募	9	0	56	5	256	121	12	169	628
				採択	2	0	15	0	74	37	1	51	180
	生活科学	生活科学一般	1501	応募	9	0	33	4	160	65	1	57	329
				採択	2	0	8	0	50	21	0	19	100
		食生活学	1502	応募	8	0	51	4	298	109	6	201	677
				採択	2	0	11	0	88	34	1	60	196
	科学教育・教育工学	科学教育	1601	応募	6	0	53	4	274	92	1	44	474
				採択	2	0	14	1	84	32	0	14	147
		教育工学	1602	応募	9	0	56	4	361	100	8	105	643
				採択	2	0	15	0	112	32	3	34	198
	科学社会学・科学技術史	科学社会学・科学技術史	1701	応募	4	0	13	0	37	16	1	20	91
				採択	1	0	4	0	12	5	0	6	28
	文化財科学	文化財科学	1801	応募	5	1	34	9	38	29	3	25	144
				採択	1	0	8	2	12	9	1	8	41
	博物館学	博物館学	1851	応募	2	0	20	0	48	12	1	20	103
				採択	1	0	6	0	15	4	1	7	34
	地理学	地理学	1901	応募	4	1	24	8	61	20	3	27	148
				採択	1	0	5	3	19	6	1	7	42



平成25年度科学研究費助成事業 系・分野・分科・細目表 (抜粋)

系	分野	分科	細目名	細目番号	備考
		デザイン学	デザイン学	1651	
		生活科学	家政・生活学一般	1701	
			衣・住生活学	1702	
			食生活学	1703	A B
		科学教育・教育工学	科学教育	1801	※
			教育工学	1802	※
		科学社会学・科学技術史	科学社会学・科学技術史	1901	
		文化財科学・博物館学	文化財科学・博物館学	2001	A B
		地理学	地理学	2101	
		健康・スポーツ科学	身体教育学	2401	A B
			スポーツ科学	2402	A B
			応用健康科学	2403	A B
		子ども学	子ども学(子ども環境学)	2451	



科学研究費補助金の審査方法

〔第1段審査〕

4名又は6名の審査委員が専門的見地から個別に審査を実施

- ・ 基盤研究（A・B：一般） 6名
- ・ 基盤研究（C）、挑戦的萌芽研究、若手研究（A・B） . . . 4名

評点分布 5: 10%、4: 20%、3: 40%、2: 20%、1: 10%

総合評点イメージ

6名の場合	5	5	4	5	4	3	4.3
4名の場合	5	4	4	4			4.3

〔第2段審査〕

第1段審査結果を基にして、広い立場から総合的に必要な調整を行うことを主眼として、小委員会において合議により審査実施

- ・ 専門分野ごとの小委員会、12名～28名程度で構成
- ・ 小委員会には、分科単位（人文社会系のみ細目単位）で複数（2～10名）の審査委員を配置

※その他審査方法

- ①ヒアリングを実施：特別推進研究、基盤研究（S）
- ②同一審査委員が個別審査、合議審査を実施：
基盤研究（A・B）（海外学術調査）、研究活動スタート支援、奨励研究、研究成果公開促進費

基金化のメリット

◆研究の進展に合わせた研究費の前倒し使用が可能

これまでの科研費制度では、研究に思わぬ進展があっても、その年度に交付された補助金の範囲内でしか研究費を使用できなかった。



科研費（基金分）では、翌年度以降に使用する予定だった研究費を前倒しして請求することにより、研究の進展に合わせた研究費の使用が可能。

◆次年度における研究費の使用が可能

研究者は、会計年度を気にすることなく研究を進めることができ、未使用分の研究費については、次年度以降に使用することが可能。

補助事業期間内であれば、前年度に発注した物品を翌年度に納品することや、翌年度に係る出張経費の支出が可能。

基金化の対象

基金化の対象は、

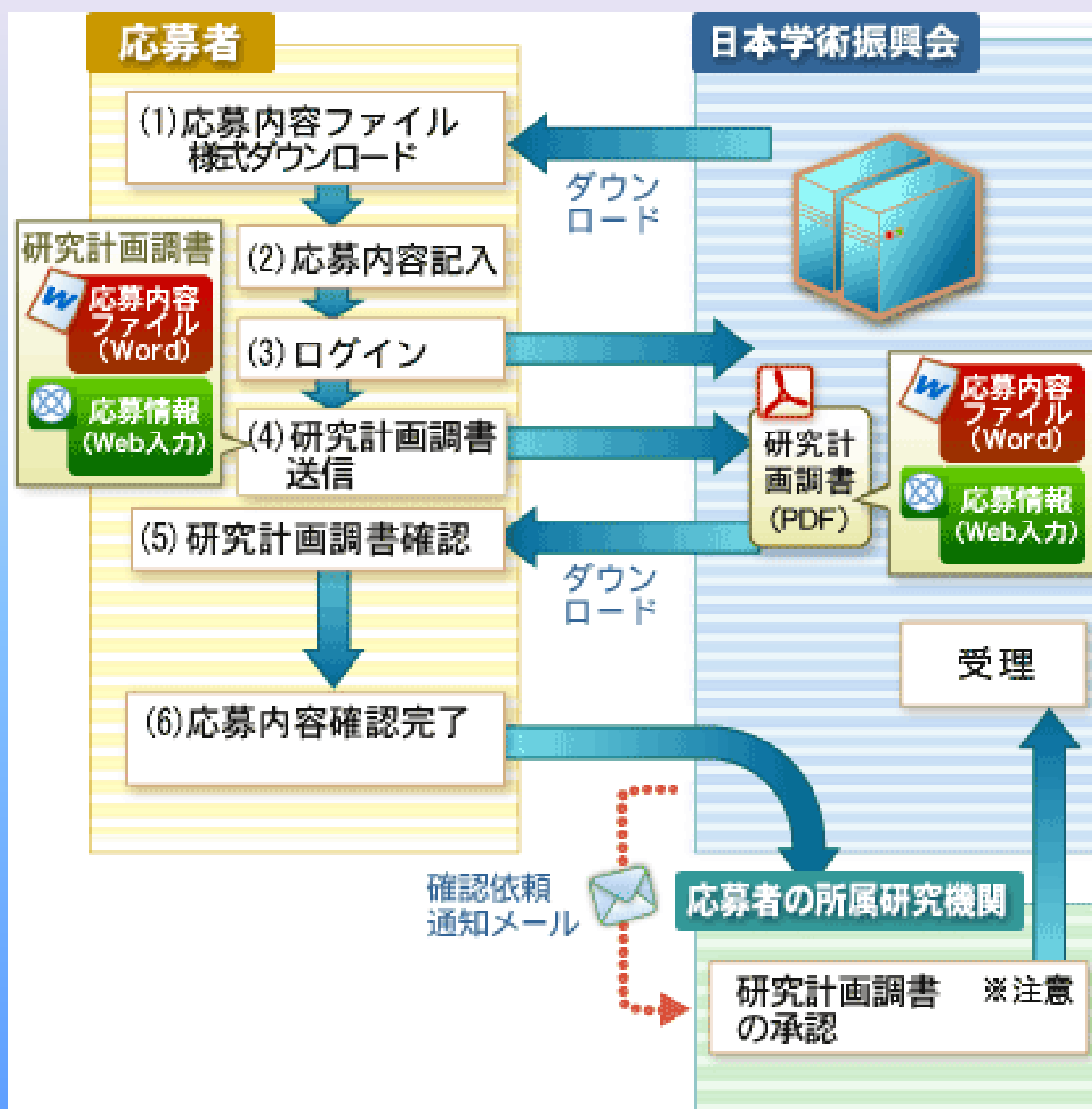
- 「基盤研究（C）」、「挑戦的萌芽研究」、「若手研究（B）」
のうち、平成23年度以降に新たに採択された研究課題
 - 「基盤研究（B）」、「若手研究（A）」
のうち、平成24年度以降新たに採択された研究課題
（研究費総額のうち500万円以下）
- ⇒ 1 研究課題ごとに研究費総額のうち500万円までは助成金、
500万円を超える分は補助金が交付されます。



共用設備の共同購入

平成24年度より、研究費の効率的な使用及び設備の共用を促進するため、複数の科研費やその他の経費を合算して共用設備を共同で購入できるようになりました。

電子申請システムを用いた応募



新瀉大學

最後に、

課題名，分科・細目，研究目的，
研究計画 を記載したドラフト版を

○ シニアアドバイザーに見てもらって
ください。

過去例では、採択率が上がっています。



想いがこもった応募を
お待ちしております。

科研費応募に係る本学のホームページ

研究・産学連携・国際交流 >

特色ある研究と研究支援制度 >

科研費応募関係